

⑩ 阪和自動車道 みなべIC、印南IC（付加車線事業）及び湯浅御坊道路 御坊IC～有田IC、 阪和自動車道 御坊IC～印南IC（4車線化事業）の開通について

受賞機関 西日本高速道路株式会社 関西支社 和歌山工事事務所

キーワード 湯浅御坊道路、阪和自動車道、4車線化、
重大事故発生リスク低減

全建賞審査委員会の評価ポイント

高速道路の完成2車線及び暫定2車線を4車線化する事業。トンネルの覆工自動施工システムを活用した省力化・高品質化、及び橋脚配置計画の変更や鉄鋼スラグの路盤材への使用によるコスト縮減が評価された。

1. はじめに

E42湯浅御坊道路は、和歌山県御坊市から和歌山県有田郡有田川町に至る高規格幹線道路、E42阪和自動車道は、大阪府松原市から和歌山県田辺市に至る高速自動車国道であり、紀伊半島北西部における地域の連携強化や交流を推進するとともに、近畿南部地域と京阪神地域を結ぶ重要な路線である。

E42湯浅御坊道路（有田IC～御坊IC）及びE42阪和自動車道（御坊IC～印南IC）は、平成25年及び平成28年6月にそれぞれ4車線化の事業許可を受け、計29.2kmが令和3年12月18日に開通した。交通渋滞の解消による定時制の向上や中央分離帯の設置により対面通行が解消されることによる交通事故に対する安全性の向上、南海トラフ地震などの大規模災害発生時には、支援物資の緊急輸送路になるなど道路機能の強化が期待される。



完成式典でのテープカットの様子

2. 事業の概要

開通区間のうち、湯浅御坊道路については、完成2車線を4車線化する区間であり、用地取得からのスタートとなった。ICのランプも完成2車線で施工されていることから、IC部の拡幅工事は一度、新しいランプに交通を切り替えたのちに既設のランプを撤去し、その後、既設のランプがあった箇所に本線の拡幅工事を行う必要があり、跨道橋についても、2車線跨ぎで施工されていることから、既存の跨道橋を一度撤去した後で、4車線跨ぎの跨道橋を新たに架設する必要があった。

3. 事業の成果

今回4車線化が完成した区間は、白浜や勝浦といった観光地へのアクセス道路でもあることから、交通混雑期をはじめ慢性的な渋滞がこれまで発生していた。特に有田IC～印南IC間の渋滞は激しく、年間約450回もの渋滞が発生しており、今回の4車線化の完成で定時性が確保され、和歌山県南部への利便性向上に寄与することが期待される。

2車線区間の死亡事故率は4車線以上区間の約2倍と言われている。今回完成した区間は、これまで2車線の高速道路であったため、対向車線を走行していた車両と激しい正面衝突になるなどの重大事故が発生するリスクが高い状況にあった。令和元年6月に御坊IC～川辺IC間で起きた交通事故では、御坊ICから大阪方面に向かっていった車両が中央分離帯を突破し、対向車と正面衝突する大事故となり、約4時間の通行止めが発生した。今回の4車線化により、安全性の向上が図られ、重大事故発生リスクが低減した。



湯浅御坊道路 川辺IC付近

4. おわりに

E42湯浅御坊道路及びE42阪和自動車道は、大阪府松原市において、E25西名阪自動車道やE26近畿自動車道と直結し、近畿南部地区と京阪神及び中京地区を結ぶ交通輸送の大動脈になるとともに、関西国際空港へのアクセス道路として重要な役割を担い、その重要性はますます高まっている。現在4車線化事業中のE42阪和自動車道（印南IC～南紀田辺IC）についても、安全を最優先に一日も早い完成に向け、整備を進めていく。

賛助会員 清水建設(株)、(株)大林組、大林道路(株)、(株)福田組、若築建設(株)、エム・エムブリッジ(株)、戸田建設(株)、(株)ガイアート、(株)安藤・間、鉄建建設(株)